

令和6年度 札幌市立盤溪小学校 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立盤溪小学校

1. 本年度の重点目標

互いの良さが生かされ笑顔あふれる学校の創造

2. 本年度の学校経営重点

「互いの良さが生かされ笑顔あふれる学校の創造」

・人間尊重教育の推進 ・課題探求的資質の向上 ・自己受容と他者受容 ・生涯スポーツの獲得

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

【達成状況(職員) A(～3.5)…達成できた B(～3.0)…ほぼ達成できた C(～2.5)…あまり達成できなかった D(2.4～)…達成できなかった】

【学校関係者評価(学校関係者評価委員) A…十分適切 B…適切 C…適切でない】

	評価項目	職員自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果・改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	経営の重点は学校や子どもの実態からみて適切である。	A (4)	○子どもたちの実態や社会情勢などを鑑み、適切であると考え。今後も互いを大切に笑顔あふれる学校に向け取り組んでいく。	A	A
意見	・現在、社会で求められる姿が重点になっていると思う。いつも笑顔で過ごせる環境＝安心できる場所なのだと感じた。 ・現在の学校教育では小学校6年間、中学校3年間、合計9年間の一貫教育が求められている。盤溪小学校は9割の児童が越境入学のため、児童の多くが別々の中学校へ進む。その分、他の小学校より児童の対応が難しいと考える。				
人間尊重教育の推進	よさに気づき認め合い、つながりをつくるどんぐり活動(縦割り活動)が充実している。 (定期的などんぐり遊び、どんぐり宿泊学習、毎日のどんぐり清掃、ドッチボール大会、サッカー大会、運動会など)	A (3.9)	○日常的に異学年が共に活動することで、良さを見付け合い、互いに高め合うことができていく。	A	A
	教育活動を通して個性や多様性を認め合い、互いを生かす態度が育成されている。 (道徳での学習、教員による人権教育研修、授業の工夫、どんぐり活動)	A (3.5)	○どんぐり活動を通して、異なる学年の発達に応じて、互いを尊重し活動している様子が見られた。 ▲個の活動をベースに子ども同士で活動したり、子どもに委ねたりする場面を設定していく。	A	A
	子どもたちが自分の役割を意識して行動したり、相手の思いを聴き自らの思いを表現したりする対話力が身につけている。 (どんぐり活動、委員会活動、行事での役割分担)	A (3.5)	○異学年での交流を通して学年に応じた自分の役割を子どもが認識し、関わる姿が多く見られる。 ▲自分の考えを表明できる子が多くなってきた一方で、相手意識をもって聴いたり話したりする指導を継続していく。	A	A
意見	・活動の場面だけでなく、生活の中でも異学年のつながりが感じられる。互いの良さを見付け、尊重し、自分の役割を認識し関わることのできる子どもたちの姿を心強く感じる。昔からずっと続いている盤溪小学校の縦割り活動をこれからも続けてほしいと願う。 ・異学年の交流は大変意義深い。自然に上の子が下の子の面倒を見る中で、社会性が自然と身に付き、社会に出た時に無理なく適応ができることにつながると感じる。				
学ぶ力の育成	子ども達の目的意識を生み出し、「わかる・できる・楽しい」授業の工夫が行われている。	B (3.3)	○子どもが主体的に学ぶ授業に向けて、一団となって授業改善に取り組み、一層学力が定着してきた。TT(チームティーチング)の活用など、より子に応じた指導を行うことができた。 ▲掲示教具やプリント類を格納するなど、効果的な活用の仕方を検討していく。	B	A
	授業での1人1台端末の活用が効果的に行われている。	B (3.0)	○授業の中で積極的に活用され、子ども一人一人のスキルが確実に上がっている。 ▲交流場面での効果的な活用法について教職員で共有し、効果的な指導の在り方を工夫していく。	A	A
	授業改善につながる学習評価が行われている。	B (3.0)	○授業場面における子どもの姿やノート等への記述をもとに適宜評価し、連続性のある授業づくりに取り組んだ。 ▲子どもの主体的な学習意欲をより高めるために、学習評価を適切に行う研修を今後も継続していく。	A	A
意見	・“学びの楽しさ”を体験できる環境があることを羨ましく思う。子どもたちが様々な活動に生き生きと主体的に取り組むことが学力の定着につながっていると感じる。 ・盤溪小学校は他の小学校と比べて、スキー学習、どんぐり学習、どんぐり遊び、サッカー大会等で体力は優れていると思う。その反面、学習面で他の小学校よりやや劣る児童が出る可能性があると感じる。オリンピック等への出場を目標としている場合は別だが、勉強が全てではなく、バランスが大事だと思う。				

健やかな身体の育成	日常的に運動し、主体的な体力づくりの取組が行われている。 (どんトレ マラドサ 運動会 体力テスト 外遊びの推進 スキー学習など)	A (3.6)	○年間を通して運動に取り組んでおり、自分の目標に向けて取り組む姿が見られる。 ▲どんトレ、マラドサのメニューを改善したことで一層子どもの意欲が高まったことを実感する。今後も適宜見直しを図っていく。	A	A
	子ども達の運動機会の充実が図られ、技能が向上している。 (どんトレ マラドサ 運動会 体力テスト 外遊びの推進 スキー学習など)	A (3.9)	○体力テストでは、ほとんどの項目で全国平均を上回っている。学校だけでなく、家庭の協力もあり運動の機会が多くあり、生涯スポーツの獲得につながっている。 ▲疲れがたまる子もいるので、休養も大切にしていく。	A	A
	子ども自らが健康づくりに取り組む態度が育成されている。 (どんトレ マラドサ 運動会 体力テスト 外遊びの推進 スキー学習など)	A (3.5)	○意欲的に取り組むことができるように体力向上プロジェクトを中心に改善を図り、子ども自身が伸びを楽しみながら取り組むようになっている。 ▲見合う場面を設定するなど、仲間の伸びや頑張りを応援しともに取り組む態度を育成していく。	A	A
意見	<p>・運動を通して体力、健康に関心をもち、積極的に取り組むことができる環境は素晴らしいと感じる。</p> <p>・盤溪小学校の場合、体力テストでは、スキー学習、どんトレ、マラドサ等の取組もあり全国平均を上回っていると思う。「健全な精神は健康な肉体に宿る」小学校では体力づくりが大事だと思う。</p>				
豊かな心の育成	温かく受容的な生活・学習環境があり、自分を肯定的に受けとめる態度が育っている。	B (3.3)	○学級・どんぐり学級での関わり、学年問わず保護者から見守られ育つ中で「互いの良さを大切に」学び成長している。 ▲自分の良さを実感できるように、学習・生活両場面での伸びを伝え合うようにしていく。	A	A
	道徳教育の推進と「命を大切にする指導」の充実が図られている。	B (3.3)	○命の大切さを実感できる指導を道徳の全学年で実施し理解を深めた。 ▲SNS等に関わる事案も社会問題になっている。SCによる授業やスマホ・ケータイ安全教室を実施し、命への考えを深められるようにしていく。	A	A
	子どもの側に立ったいじめ・不登校への対応が確実に行われている。	B (3.3)	○日常から子どもの様子を見取り、教職員、SCやSSWなどの関係機関と連携し、迅速に未然防止、早期発見、対処に努めた。 ▲シャボテンログを活用し、子どもたちの変化や困り感に対応し問題を解消していく。	A	A
意見	<p>・温かく、受容的な人間関係の中で過ごせる環境を、これからも大切にしてほしいと願う。</p> <p>・盤溪小学校の近くには山があり、スキー場があり、川が流れており自然が豊かだ。自然と親しむことにより、心が豊かになっていくのではと感じる。「みんなみんな生きているんだ、友達なんだ」生き物を大切にすることが育まれる。</p>				
信頼される学校	子ども・保護者・地域へ、ホームページや学校だより等を通して適切な情報発信が行われている。	A (3.5)	○ホームページの改善や学校保護者間の連絡ツール「すぐーる」を活用し、より迅速な情報発信を行うことができた。 ▲今後も情報発信に加えて来校していただく機会の多い本校ならではの良さをいかして学校理解に努めていく。	A	A
	家庭・地域・パートナー校と連携した活動の充実が図られている。	A (3.3)	○市内他校に先駆けてパートナー校での学校運営協議会を立ち上げ、三者の連携を深めた。 ▲保護者評価では昨年度より高い評価を得ている。継続して保護者との連携を密にし、信頼される学校を目指していく。	A	A
	校内外の整備が行われ、子どもが安心・安全に過ごすことができる環境が整っている。	A (3.5)	○日常的に校内外を見回り、危険箇所を確認して対応したり、市教委と連携をしたりすることができた。 ▲学校の老朽化や自然災害に対応できるように、多くの目で安全を確認し対応していく。	A	A
意見	<p>・保護者と学校の「互いの良さを大切に」の考えを参考にさせていただきたい。</p> <p>・盤溪小学校は、中学校へ進学する場合、友達が少ないというハンデがある。スキーでもサッカーでも良いので、中学校で孤立しないように小学校の時から仲間づくりをしておく必要があると考える。</p>				